

# 東淀川区区政会議 防犯・防災部会 学習会 議事概要

※枠内は委員意見、枠外は区役所職員

日時・場所 平成 29 年 5 月 10 日(金)午後 7 時から 9 時 東淀川区役所 3 階 304 会議室

出席者 防犯・防災部会委員 8 名、他部会委員 2 名

## 議題 1 平成 29 年度東淀川区運営方針及び平成 28 年度事業実施報告について

(東淀川警察署より防犯に関する現状について報告)

- ・ 29 年より大阪府重点犯罪に「特殊詐欺」が追加された。今年は今時点で既に 10 件、1900 万円の被害。このままでは昨年を上回る。世間体を気にして通報しない人もおり、実際の被害はもっと多いと考えられる。
- ・ 日頃から情報収集を。「私はひっかからない」は危険。少額だったり、警察や銀行を名乗って巧みにスーパーやコンビニの無人 ATM へ誘導。名指しでの電話で信用させる。
- ・ 携帯メール配信システム（安まちメール）で毎日犯罪情報を発信している。
- ・ 電話番号を変えたり、未登録番号からの電話にランプが赤く光る無料の機器設置もおすすめ。
- ・ 子どもや女性への性被害は 39%が 10 代。下校時の声かけが多い。20 代は終電以降。徒歩中の被害が 75%。道路上がほとんどだが、2~3 月に河川敷で多発していた。河川敷は人気が少ない防犯カメラも少ない。早朝・深夜のジョギング中の被害が多い。
- ・ 自転車のマナーの向上を図りたい。放置自転車問題も。

(東淀川消防署より防災に関する取り組みについて説明)

- ・ 昨年度実施した訓練等は続けていきたい。小中学生に対しても家の鍵を持っていく等啓発。
- ・ 今までの常識は地震があったら「机の下に入る」だが、今は「机の脚にしがみつくと」が追加されている。津波の場合も「3 階以上に上がる」だけでなく「そこに留まる」ことが重要。より実行性を高める一歩進んだ対応の啓発に力を入れたい。
- ・ 避難所の大切さもある。地震で亡くなる人の倍の人数が関連死で亡くなっている。周りと共に協力して生き延びる知識などをお伝えしていきたい。

## 議題 2 平成 30 年度事業及び将来ビジョンについて

(防犯について)

- 特殊詐欺が多いこの情勢では、公的機関が行う正式な案内なども誤解される恐れがある。
- 本人が電話番号を変える入口対策。銀行が取扱いのない口座を制限する出口対策の間の対策ができないか。
- 高齢者が集まるところで映像などの啓発ができれば。(各地域集会所には啓発 DVD を昨年配布)
- 子どもや女性被害について、子どもや若い人が多いまちなので減らしていけないか。
- 放火対策ができないか。古い家屋が密集している地域もたくさんある。
- 皆が門灯をつけるなど、明るい・人気（ひとけ）を感じるまちづくり。放火しにくくなるのでは。
- 空き家についても検討が必要。
- 防犯カメラを被害後の検証用だけでなく、設置をアピールして犯罪抑制できないか。
- (犯人がカメラを避けて犯罪するなら) 事故が多い交差点や大通りは看板をつけてアピール、路地裏はあえてつけないなど使い分けてはどうか。

- ・ 自転車への放火が相次いだ。燃えるものを置かない、物音がしたら周りが窓を開けるなどの取り組みも必要。安まちメールの登録者は 5500 人弱で区人口の 3%。周知を強化したい。